グアナファト日本人学校　児童生徒作成資料①

小学部３年　総合学習
「メキシコの死者の日調べ」

Dia de Muertos

Rino Tonomura

発表の内容

1　ハロウィンと死者の日
2　なぜガイコツを飾るのか
3　カトリーナについて
4　祭壇について
5　マリーゴールド
6　パペルピカド
7　まとめ/感想

1. ハロウィンと死者の日の違い

ハロウィン

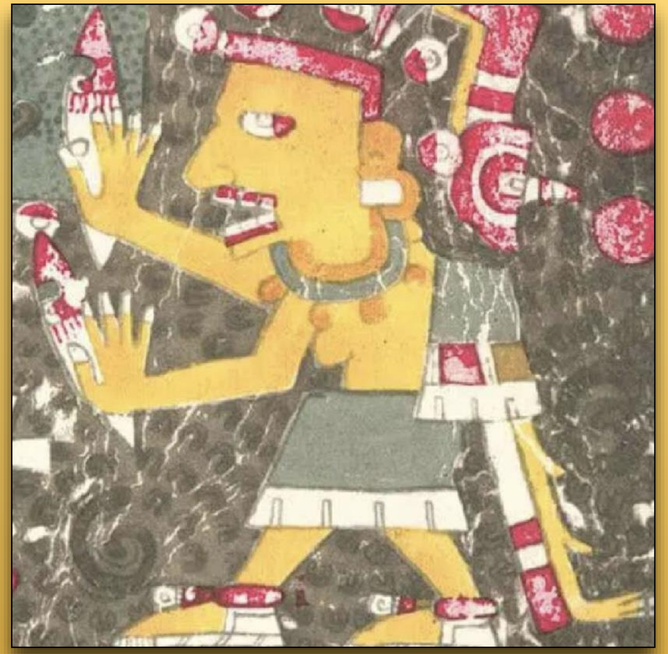
・起源　アイルランドのケルト人が行っていた儀式
・時期　10月31日
・目的　秋の収穫を祝い、怖い仮装をして悪霊を追い払う

死者の日

・起源　アステカ文明発祥
・時期　11月1日と2日
・目的　ラテンアメリカの国々で亡くなった人を思い出す

2. なぜガイコツを飾るのか？

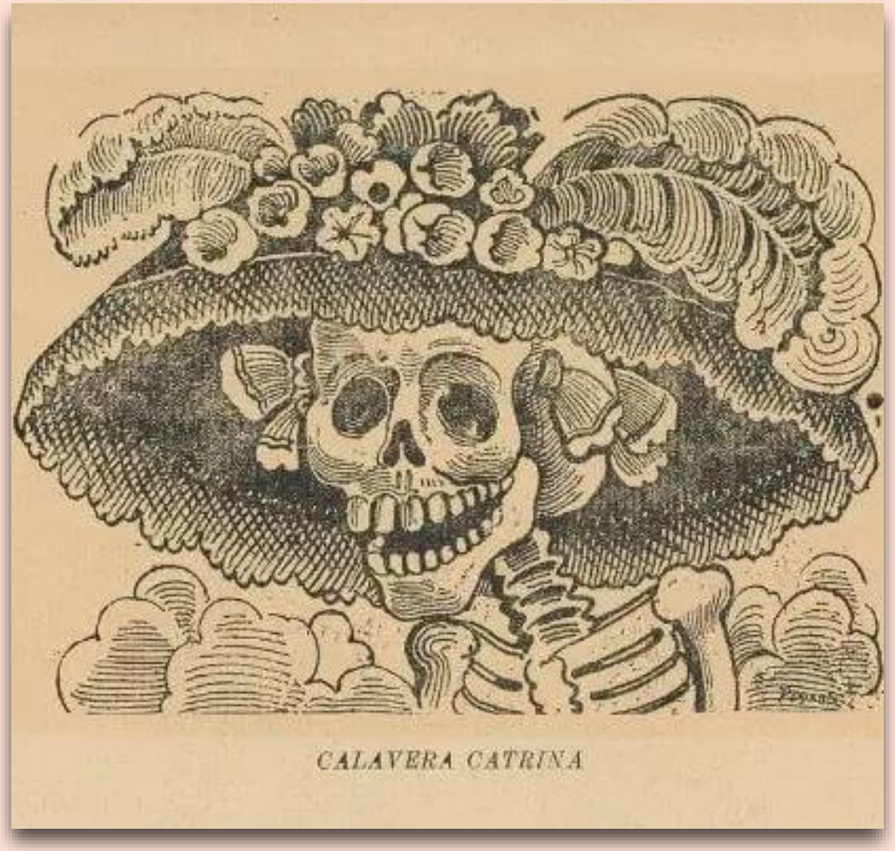
- メキシコでは、2500年～3000年前から先祖のガイコツを身近に飾る習慣がありました。
- ガイコツは死と生まれ変わりの象徴としてトロフィーの様に扱われていて、中でもアステカ族には女神ミクトランシワトルにささげる祭りがあり、それが現代の死者の日に大きな影響を与えたと言われています。



ミクトランシワトル　別名「死の夫人」
・麻痺した体で足を引きずって歩く
・星を飲み込むために開いた口
・死者の骨や、人の肉を切るためのナイフを持っている

3. カトリーナについて

- スペイン人の入植後、自分の文化を否定され続けた先住民の人々は、自分達の文化を恥じるようになりました。
- 女性たちはヨーロッパのスタイルを真似て、自分の浅黒い肌を白人のように見せるために白塗りのメイクをしました。そんな先住民を描いたものが「カトリーナ」でした。
- カトリーナはメキシコの人々の重い歴史が詰まったメキシコで最も愛されているガイコツなのです。



4. 祭壇について

- 昔から死者の日には先祖や家族のお墓を豪華に飾り付け、盛大に祝うのが習慣がありました。
- 橋(マリーゴールド)を渡るためには、誰かに写真を祭壇に飾ってもらわなければ橋を渡れない。
- 祭壇に飾るものは、砂糖でできたガイコツの置物(シュガースカル)、パンデムエルトス、亡くなった家族の写真、亡くなった家族の好きだった食べ物や飲み物、たくさんのマリーゴールド。

5. マリーゴールド

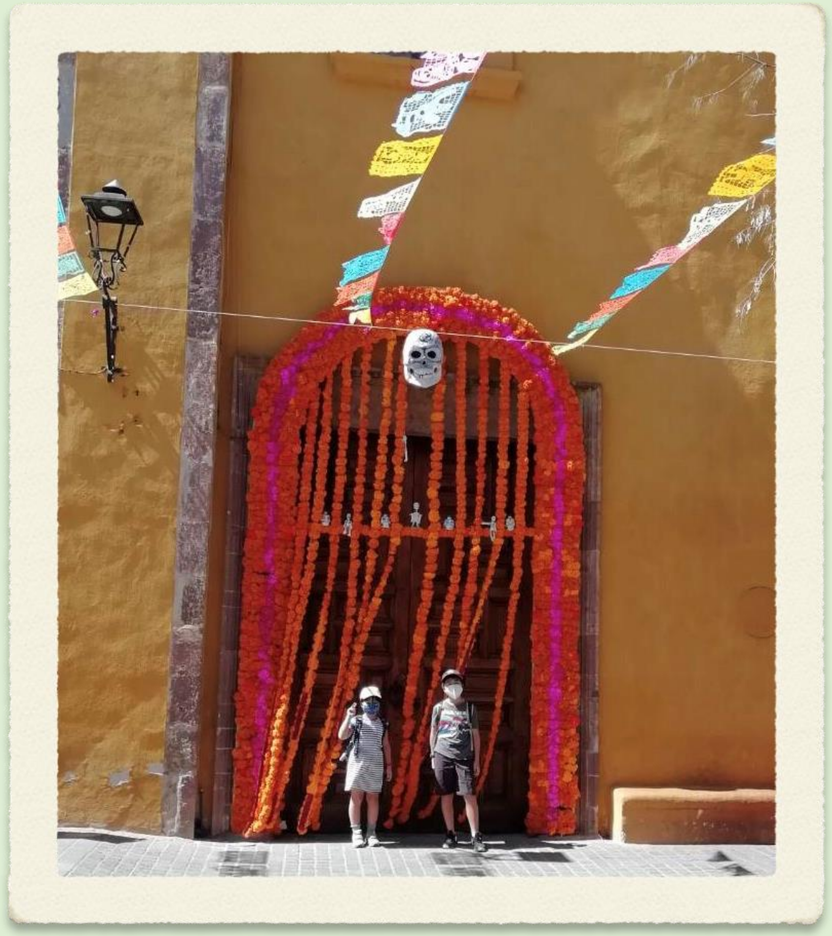
- マリーゴールドはメキシコ原産の花で、「死者の世界から祭壇まで死者を導く」という言い伝えがあります。

- 死者が通る道を表し、マリーゴールドを飾っておけば、亡くなった人の魂が道に迷わず家族のもとに戻れると言われています。

6. パペルピカド

- パペルピカドはスペイン語で、「穴を開けられた紙」という意味で、メキシコに移民としてやって来た中国人がつくった切り絵が人気となり、のちにお祭りごとに街や建物を飾るパペルピカドになりました。

- 結婚式では、白色のパペルピカドが飾られ、死者の日では青色が水が原因で亡くなった人、黄色は老人の象徴、紫色はカトリックを意味しています。



マリーゴールドで飾り付けされたお店の入り口

私が作ったパペルピカド

7. まとめ/感想

死者の日は悲しむのではなく、死者と共に明るく楽しく過ごし、祭りを終えたら死者たちが満足して死者の国へと行けるように祈る日だと知りました。

死者を迎える日本のお盆と似ているのは、メキシコ人は日本人と同じモンゴル系が多いそうなので、もしかしたら死者に対する考え方が似ているのかなと思いました。でも明るさや楽しさがここまで違うのには驚かされました。

私はガイコツは怖い物だと思っていたけど、死者の日について学習して、怖いのではなく、親しみやすく可愛い物だと思いました。